

戦争と平和と幸せと

沖縄県立開邦中学校二年 山城 成騎

自分は平和について考えた。そもそも平和って何？楽しく生きること？安心して生活できること？幸せな人生を歩むこと？ならその「幸せ」ってなんだろう。逆に「不幸」ってなんだろう。それは人それぞれの価値観の違いから生じるものと自分は思う。

自分は戦争について考えた。何で戦争は起こるの？その答えは至ってシンプルに「欲」だろう。「あれがほしい」「これがほしい。」といったものが国の大きさになり、互いに奪い合うと戦争になる。それなら、欲が無くなれば戦争もなくなる。ただし、それは欲で作られてきた人類の発展を止めてしまう。だから欲は必要不可欠だ。

なら、他に戦争を起こす原因は？それは、一人一人の持つ「正義」だ。優しさや大切な物を守ることは大切だと思う。だけど、それは自分一人の正義であって他の人には通じない唯一無二のものだ。実際、戦争の場合、自分の国から見れば相手は「悪」で、自分達は正義のヒーロだが、それは相手から見たら逆なのかもしれない。

つまり、自分達の正義で戦争が起こることになる。「正義」は傍から見れば「悪」なのだ。ならば、互いの正義がぶつかった時、一番大切にすべきことは何だろうか。

これまで、平和の勉強では、「平和」という議題から線を繋いだり、囲んだりしたが、その中には必ずといっていいほど「戦争」という単語が入っているだろう。なら、議題を「戦争」から入れればどのような新しい視点や考えが出るのだろうか。

自分達日本人は平和な状態だ。平和で満足した状態からより幸せになるものを与えても反応は薄いと思うが十分な状態を奪われると嫌という気持ちになるのを今の自分達は平和だから推測するしかない。なら、戦争という全てを奪われた状態から奪うとなくても抗う気力も意見も言えないだろう。だが与えられるとなると話は別だ。今までは0の状態から一に変わるのとはとても大きく、その感謝を実感できる。推測と実感する

には大きな差があると自分は思う。ただし、「戦争を体験して平和を知ろう」という分けではなく、あくまで考える出発点を「戦争」から考えてほしいということだ。

話を戻すが「幸せ」と「平和」は関わっている。なら、「戦争」とも関わっていると言える。その言葉を忘れないでほしい。それを感じられるのは自分だけ考えた「幸せの箱」だ。

たとえば、平和の容器があるとしたら、それは幸せで満ち溢れている。だが容器だから限界があるからこそ増えても出ていくからあまり喜ばないのもわかる。逆に戦争が容器ならそれは幸せは溜まっていない。それなら幸せを加えることができ、満たされる満足感を感じられる。

箱は幸せを溜めることができが穴が空いていたらどうだろう。穴から幸せが逃げてしまい、満たされることはない。だから幸せの数が多くても穴より小さければ逃げてしまう。逆に穴より大きければ防いで満たすこともできる。なら、その大きさを防ぐほどの大きな幸せって？それは「生きる」こと、「生きる」ことに感謝することが大切で、それは「平和」と「戦争」のどちらにも共通していて、それが互いに幸せを溜める上での土台となる。だから、「幸せ」「平和」「戦争」は関わっているとわかる。

自分も「生きられる」という生活や勉強、運動などの全ての根底にあることを実感し、感謝していく。

学校で習った沖縄戦では多くの県民が入り込み、中には自決、殺されて亡くなった人もいるとわかった。体験者にとって、まだ生きられる命が目の前で亡くなることは悲しいと思う。それは兄弟のように……。ただ、その時は自分が生きることに関心でそんな暇無かった。だからこそ自分の命を大切にしたいことでそれを支えてくれているのは周りの人達だったと思う。

「いちゃりばちよーでー」

出会えば兄弟。そんな沖縄の方言が、「みんなが一生懸命生きているから、せめて、出会った人達だけでも、兄弟のように助け合っていこう」と思ったのは自分だけだろうか。

そして、自分の人生のページにも「幸せ」「戦争」「平和」のことは刻んでいこうと思う。